

3月29日(土) 全日本大会前日のイベントとして恒例になった O-forum では「読図・ナビゲーション講習会を開こう」というワークショップを開催する。

OLの普及にもつながり、アウトドアにおける自分たちの位置づけを再認識できるイベント開催のノウハウを余すことなく提供する。

なぜ読図講習会なのか？

かつての山岳遭難と言えば、冬季の悪天候によるものか岩場での転落等、派手なものが多かった。ところが中年の登山者が増えた今、山岳遭難の原因第一位は道迷い遭難である。日常的にも遭遇する道迷いだが、ばかにできない。毎年その中で20名程度が死亡していると推測されている。また最終原因は「滑落・転落」になっている事故の中には発端が道迷いであるものが少なくない。2006年10月に六甲山で、遭難者が24日後に仮死状態で偶然発見された遭難事故でも、道迷いが発端であった。

道迷い遭難の大きな原因は、登山者が地図を読むスキルや知識を十分持っていないことだと思われる。テント泊をする本格的な登山をする登山者でさえ、満足に地図が読めないことが多いのである。

最初は、自分がオリエンテーリングで培ったナビゲーションと読図のスキルを登山の世界に問うてみたい。その中で、オリエンテーリングの社会的地位を少しでも高めることができたら...。そんな思いで2001年に発行した「道迷い遭難を防ぐ最新読図術」は、筆者の期待以上に一般登山者から支持されたが、何より専門家から高い評価を受けた。そのことが、とりもなおさず、登山界における読図技術の蓄積がないことを表している。

あちこちで講演や講習会を頼まれて、登山の世界を深く知るにつけ、その思いは深まった。オリエンテーリングほど読図とナビゲーションに関するスキルを深く・広く蓄積している活動は

ないのだ。そして、このことは、オリエンテーリングの普及や活性化、そして社会的認知の大きな鍵となるはずだ。こうした視点から、登山者を対象とした読図・ナビゲーション講習会を継続的に開催するようになった。

何をするのか？

一般の登山者の多くは、本当に何も知らない。講習会に集まってくる人もそういう人がほとんどなのだ。だから、講習会も概ね初級・中級と分けてやり、初級では地図記号から始める。現在は、街中にある登山ショップとタイアップし、平日の夕方初中級のカテゴリーに分けて1時間程度の講習を行なう他、休日に屋外講習会を丸一日かけて行なう。

店内では、スペースの関係もあって定員10名。屋外では定員20名程度となる。屋内で3回シリーズの基礎をやり、屋外講習会を行なう。のべ50人の定員は、毎回募集後ひと月以内にいっぱいになる。

何が得られるのか？

講習会で多くのことを受講生に提供してきたが、反対に受講生から与えられたものも多い。彼らは何を難しいと思っているか、どこに躓くかという指導のヒントはいつももらっている。整置しろと僕は簡単に言うが、オリエンテーリングにとって基礎的な整置すら、実は難しいことなのだ。

読図は複雑なスキルからなりたっている、それらの技術をランニングスピードで難くこなしているAクラスのオリエンティアの読図力はアウトドア界に誇れるものだし、トップオリエンティアは、サッカーで言えばファンタジスタとさえ言える。ある意味当たり前前のことは、一般の人に教えて初めて気づけたことだ。

受講者の中にはオリエンテーリングに興味を持ち、近場で開かれる大会に参加してくれる人もいる。思えば黎明期のオリエンテーリングを支えた人の中には、登山の世界から入ってきた人たちが少なくなかった。

O-forumへ参加しよう！

全日本大会の前日の O-forum2008 では、こんな趣旨で開催している読図・ナビゲーション講習会や集客のノウ

ハウを紹介する。

あなたの指導した登山者が、いつかその技術で自らの命を守る時があるかもしれない。



屋内講習では、記号の基本などを学習。等高線の読み方などは実習を取り入れる。



講習で多用するプロジェクター+ホワイトボード。風景や地図を読み取る頭の中のスキルを可視化できる最高の道具だ。



もちろん、屋外実習は講習の中核をなす。講師の読み取った情報を確認する受講者たち

O-forumの詳細については日本オリエンテーリング協会のホームページか、日本オリエンテーリング協会事務局(電話: 03-3467-4548)まで。